

# 言葉の練習

赤ちゃんが母国語を習う順序は「見る」「真似する」が先で「聴く」「話す」「読む」「書く」が後です。社会人は学生と違って昼間は仕事で忙しいので、通勤時間とか休日などに小間切れの時間で英語を練習することになります。でも基本は「見る」「真似する」から入り「聴く」「話す」「読む」「書く」になります。日本の受験英語ではいきなり「読む」「書く」から始めるので、これでは会話は上達しません。

「見る」「真似する」は大人にも必要な練習です。次のページにあるように、この練習方法を下から積み上げて行く山形のモデルで説明すると、その土台に当たるのが「想い・願望・動機」です。下のインプットで覚えた表現を上のアウプットで使います。英語による表現の引き出しを増やすのが練習の目的です。

《「見る」と「視る」の違いは、前者が無意識に目に入るのに対して後者は意識して目に入れるということです。同様に「聞く」と「聴く」も前者が無意識に耳に入るのに対して後

者は意識して耳に入れるという事です。ですから視聴者とか視聴率と言います。英語なら見るが look で視るは watch です。映画をみるのは watch a movie です。Watchには見張るという意味もあります。聞くは hear で聴くは listen です。日本語だと漢字は違っても音が同じなので、会話の中で区別が曖昧になりがちです。でも英語ではちゃんと区別します。上の空でも耳に入れば hear で、漏れのないように耳に入れるのが listen です。》

英語の練習は日本語の練習と基本的に同じです。ただし愛情あふれる母親から赤ちゃんが言葉を習うのとは違い、大人が言葉を練習する場合つきっきりで教えてくれる人がいません。その代わりに利用するのがインターネットなどのテクノロジーです。大人はすでに言葉をひとつ使っているのに、新しい言葉に慣れるのに20年はかかりません。長くても3年あれば十分です。また大部分の練習はひとりでもできます。それではまず「見る」練習から始めましょう。